

■生保大手8社の9月中間決算

	保険料等収入	基礎利益
日本生命	4兆1089(38.4)	3577(38.0)
第一生命	3兆6822(11.9)	2158(4.0)
明治安田生命	1兆6125(▼12.5)	2615(18.2)
住友生命	1兆2800(▼ 2.4)	1488(35.5)
T&D	1兆1163(0.2)	567(▼13.7)
ソニー生命	7844(12.0)	846(108.0)
富国生命	4047(1.8)	425(293.5)
朝日生命	2130(3.8)	133(210.7)

億円。かつこの内は前年同期比増減率%。▼はマイナス。ソニーを除き半生保の合算または連結

大手生保7社が増益

9月中旬 コロナ関連支払い減

生命保険大手8社の2023年9月中間決算が22日、出そろった。新型コロナウイルス関連の保険金の支払いが大幅に減ったことや金利の上昇で、7社が本業のもうけを示す基礎利益が増加。一方、利上げを進める米欧と日本との金利差拡大により膨らんだ「為

替ヘッジコスト」が重しとなり、1社が減益となった。23年3月期はコロナ関連の入院給付金が膨らむなどして全社で減益だったが、今年度はこうした保険金の支払いが急減し、業績が持ち直している。富国生命は基礎利益が約4倍

に。朝日生命、ソニー生命はそれぞれ3倍、2倍と大きく利益を伸ばした。日本生命や第一生命ホールディングスは日米の金利上昇で一時払い商品の利回りが上がり、販売が好調だったことも収益を押し上げた。生保は預かった保険料の一部を、外国債券で運用している。その際、円高になって大きな為替差損が出るのを避けるため、「為替ヘッジ」をすることがある。金利差に比例するこのコス

トは、米欧と日本の金利差拡大で増加している。その影響が大きかったT&D H Dは減益となった。

(多鹿ちなみ)